

都市再生整備計画 事後評価シート
高田地区(都市再構築戦略事業)

平成30年3月

新潟県 上越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	上越市	地区名	高田地区(都市再構築戦略事業)		面積	674ha		
交付期間	平成25年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	4,968.8百万円	国費率	0.5			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業 (参考)	基幹事業	事業名 ○公園:高田公園 ○地域生活基盤施設:高田公園情報板整備事業 ○高次都市施設:厚生産業会館整備事業(地域交流センター) ○中心拠点誘導施設:上越高等学校改築事業								
		提案事業	○なし								
		効果促進事業	○高田開府400年記念事業 ○まちづくり会社交付金交付事業 ○街なか散策促進事業 ○雁木整備補助事業 ○高田公園再整備事業 ○高田公園内スポーツ施設再整備事業 ○高田公園PR・案内促進事業 ○高田駅前整備事業 ○中心市街地交通量調査 ○都市再生整備計画策定事業 ○まちづくり活動支援事業 ○事業効果分析調査								
	当初計画から削除した事業 (参考)	基幹事業	○土地区画整理事業:土橋第一地区土地区画整理事業計画案作成事業	削除/追加の理由	社会資本総合整備計画の効果促進事業に移行したため削除					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	まちづくりの目標『市場ニーズに対応した居住環境の整備・改善による定住人口の増加』を削除 目標を定量化する指標『高田地区計画区域における居住人口』を削除
		提案事業	○なし								
		効果促進事業	○なし								
	新たに追加した事業 (参考)	基幹事業	○道路:市道高田公園球場線	高次都市施設から事業分離したことによる追加						影響なし	
			○下水道:上越市公共下水道事業	高次都市施設から事業分離したことによる追加						影響なし	
			○高質空間形成施設:寺町公衆トイレ整備事業	来訪者の利便性向上を図るため追加						影響なし	
			○高質空間形成施設:高田駅前雁木整備事業	来訪者の利便性向上を図るため追加						影響なし	
○高次都市施設:厚生産業会館整備事業(子育て世代活動支援センター)			市民ワークショップによる施設全体計画の見直しによる追加						影響なし		
提案事業	○既存建造物活用事業:総合博物館整備事業	交流人口の拡大を図るため追加						来館者数の増加を目標に、指標2『高田公園利用者数』を上方修正			
	効果促進事業	○小川未明文学館整備事業 ○空き店舗等利用促進事業 ○土橋第一地区土地区画整理事業計画案作成事業 ○土橋第一地区土地区画整理事業									
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	なし							
	変更	なし									

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	中心市街地歩行者数	人/日	4,481	H24	5,000	H29	4,396 (H27)	5,003 (H29)	○	あり —	上越高等学校改築事業により学校の郊外移転を抑制して学生をまちなかに留めたほか、交流拠点との連携や効果促進事業による各種イベント等が一体となり賑わいの向上に寄与したとともに、寺町公衆トイレ整備事業や高田駅前雁木整備事業により歩行者の利便性及び回遊性が向上し、中心市街地歩行者数の増加に繋がった。
	指標2	高田公園利用者数	人/年	1,147,076	H23	1,484,600	H29	1,734,439 (H27)	1,536,971 (H29)	○	あり —	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	高田駅の利用者数	人	4,600	H24	/	/	4,324 (H27)	4,532 (H28)	/	/	人口減少社会の中にあっても数値は横ばいで、対H27でみると利用者が増加しており、また、北陸新幹線から在来線への乗換えによる流入人口も一定程度見込まれることから、事業効果が発現しはじめていると考えられる。 (参考:北陸新幹線開業に起因する特急・快速の増減便なし)
	その他の数値指標2	新たな地元主体のイベント数	件	±0	H24	/	/	2 (H27)	4 (H29)	/	/	地元主体で新たなイベントが開発され、延べ1万人を超える入込客数により交流人口の拡大に寄与している。また、まちづくりに係る地元の機運が高まる定性的な効果も発現している。
	その他の数値指標3	上記の入込客数	人/5年	±0	H24	/	/	4,230 (H27)	12,151 (H29)	/	/	空き店舗が活用され、まちの賑わい再生に向け事業効果が発現し始めている。今後の波及効果に期待する。
	その他の数値指標4	空き店舗の解消数	軒	±0	H24	/	/	1 (H27)	4 (H28)	/	/	貸館機能とまちなか回遊の拠点機能を併せ持つ公共施設である高田小町の入館者数が増加しており、29年度も上半期までの実績に前年同数の下半期見込とした場合、評価値よりもさらに増加が見込まれ、事業効果が発現し始めている。まち全体の活性化に向け、地域住民やまちづくり団体の継続的な活動が期待される。
	その他の数値指標5	高田小町の利用者数(入館者数)	人/年	25,471	H24	/	/	24,797 (H27)	25,596 (H28)	/	/	高田公園桜植替え事業をきっかけに、公園や桜の管理を行う住民主体のボランティア組織が生まれ、観光資源や良質な景観・空間の保全に加え、地域の魅力を向上させようとする意識が醸成された。 ・上越高等学校(フードコース)の生徒が主体となって地元のお土産(お菓子)を考案し、イベントを通じて地元の店舗と協働で販売するなど、学生が積極的にイベントに参加し、地域住民やまちづくり団体と交流することで、地域との連携やコミュニティが醸成された。 ・まちにムーブメントを起こそうと一部の店舗や団体が自ら意欲的に活動を始め、地元主体によるまちづくりの機運が高まってきている。
	4) 定性的な効果発現状況											
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	社会資本総合整備計画の中間評価に合わせて実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続きモニタリングを継続し、効果の持続状況やまちの課題の変化等を捉え、今後のまちづくりに繋げていく。					
	住民参加プロセス	厚生産業会館の整備計画に関する市民ワークショップの開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 市民ニーズに沿ったより良い施設環境を維持継続する為、必要に応じて意向調査やワークショップを開催する。					
	持続的なまちづくり体制の構築	高田公園ボランティア組織(桜プロジェクト)	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 市民と行政が一体となって、今以上に愛着と魅力が向上する公園づくりに努めていく。					

様式2-2 地区の概要

高田地区(新潟県上越市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 高田開府400年と北陸新幹線開業を新たなスタートとした城下町高田の賑わいの再生とまちの再構築 目標1: 拠点施設の拡散防止と新たな施設設置及び再生による中心拠点区域の都市機能の維持・強化	中心市街地歩行者数	単位: 人/日	4,481	H24	5,000	H29	5,003	H29
	高田公園利用者数	単位: 人/年	1,147,076	H23	1,484,600	H29	1,536,971	H29



上越高等学校



総合博物館 ※完成イメージ



厚生産業会館



地域交流センター



市民ワークショップ



部活動



授業風景

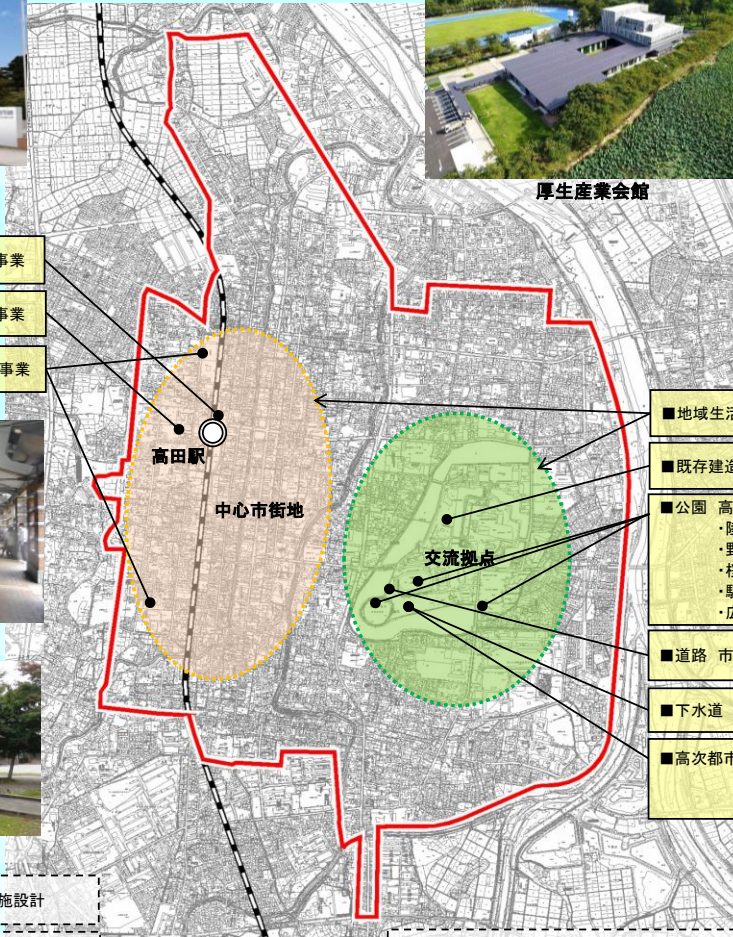
- 高質空間形成施設 高田駅前雁木整備事業
- 中心拠点誘導施設 上越高等学校改築事業
- 高質空間形成施設 寺町公衆トイレ整備事業



高田駅前雁木 ※完成イメージ



寺町公衆トイレ



子育て支援センター



高田公園広場等 ※完成イメージ



陸上競技場



野球場



桜植替え

- 地域生活基盤施設 高田公園情報板整備事業
- 既存建造物活用事業 総合博物館整備事業

- 公園 高田公園
 - ・陸上競技場等整備事業
 - ・野球場整備事業
 - ・桜植替え事業
 - ・駐車場等整備事業
 - ・広場等整備事業

- 道路 市道高田公園球場線

- 下水道 上越市公共下水道事業

- 高次都市施設 厚生産業会館整備事業
 - ・地域交流センター
 - ・子育て世代活動支援センター

凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業
	効果促進事業

- (参考)
- 効果促進事業
 - ・開府400年記念事業
 - ・まちづくり会社交付金交付事業
 - ・街なか散策促進事業
 - ・雁木整備補助事業
 - ・高田公園再整備事業
 - ・高田公園内スポーツ施設再整備事業
 - ・高田公園PR・案内促進事業
 - ・中心市街地交通量調査
 - ・都市再生整備計画策定業務
 - ・まちづくり活動支援事業
 - ・事業効果分析調査
 - ・小川未明文学館整備事業
 - ・空き店舗等利用促進事業
 - ・土橋第一地区土地区画整理事業計画案作成事業
 - ・土橋第一地区土地区画整理事業

- 関連事業 高田駅前雁木整備実施設計

- 関連事業 暮らし・にぎわい再生事業

- 関連事業 新潟県における災害に強い安全・安心な都市公園づくり(防災・安全)

<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育文化施設（上越高等学校）の改築により、拠点施設の郊外移転を抑制し、まちの賑わい形成のもととなる学生をまちなかに留めることができた。また、改築した校舎を利用した講演会やイベントが開催され、そこに学生が積極的に参加することによって、地元との連携やコミュニティが醸成され、中心市街地の活性化に効果をもたらした。 ・屋内拠点として厚生産業会館が整備され、多様な世代の多様な目的による交流が新たに生まれた。ワークショップにより市民主体で造った施設として、市民自ら多種多様な施設の使い方を応用し、施設のポテンシャルを最大限に活かしはじめている。 ・厚生産業会館に子育て世代活動支援センターが併設されたことで、多世代が交流できる環境が充実し、魅力ある拠点施設となったとともに、屋外拠点である広場を総合的に整備したことにより、賑わいと交流の相乗効果が生じた。一方、多くの交流人口を生んだことで、歩行動線上のバリアフリー化や公園本体と広場が道路で分断され一体利用できないことが新たな課題として発生した。 ・体育施設（野球場と陸上競技場）については、改修前には開催できなかった大規模な大会を開催することが可能となり集客力の強化に繋がった。また、市外からの集客も増加し、宿泊や飲食、観光等による中心市街地への波及効果が見られ、今後もこれらの効果を継続させるためには、交流拠点と中心市街地双方の更なる連携強化が必要である。 ・当事業の実施により交流人口の拡大に成功したが、中心市街地における狭隘道路や密集市街地特有の住みづらさ等から定住人口の拡大にまでは至っていない。
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当該区域に高等学校が複数点在するという街の特徴を活かし、学生がイベントに参画しやすい環境を引き続き促進し、学校での取組みを地域や学校間でコラボレーションするなど、更なるまちの賑わいの創出や中心市街地の活性化に繋げるため、学生が自由な発想で主体的に行う新たなイベント開発等を検討する。 ・厚生産業会館は多世代による幅広い分野の活動の場として利用されているが、更なる魅力と活力ある施設へ成長させるため、誰もが気軽に自由に集える利便性と質の高い施設として強化を図るとともに、活動グループ間や世代間の交流を促進する取組みを検討する。 ・公園全体の更なる機能強化と賑わい創出のため、安全で快適な歩行空間の確保や公園本体と広場の一体利用等バリアフリー化を検討する。 ・交通弱者をはじめとする来訪者の回遊性を高めるため、公共交通機関の利便性向上や上越総合技術高等学校の生徒による放置自転車再利用活動を発展させ、拠点に自転車を配置するなど交流拠点と中心市街地を車以外で結ぶ対策を検討する。 ・まち全体の活力増進を図るため、交流拠点と中心市街地相互におけるイベントや施設の空き情報の共有化、電子媒体等による情報発信を検討する。 ・人口減少社会の中にあっても持続可能なまちとするため、当事業効果を活かした定住促進策の検討を進める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		(目標の一部削除) 市場ニーズに対応した居住環境の整備・改善による定住人口の増加	削除	基幹事業である『土橋第一地区土地区画整理事業計画案作成事業』及び『土橋第一地区土地区画整理事業』が社会資本総合整備計画の効果促進事業に移行したことにより目標を削除した。
B. 目標を定量化する指標	●		(目標を定量化する指標の一部削除) 高田地区計画区域における居住人口	削除	上記により削除したまちづくりの目標に関連する指標であるため、削除した。
C. 目標値	●		指標2:高田公園利用者数 1,451,200人/年	指標2:高田公園利用者数 1,452,600人/年	基幹事業として『既存建造物活用事業:総合博物館整備事業』を追加したことにより高田公園利用者の増加を見込み、高田公園利用者数を変更した。
			指標2:高田公園利用者数 1,452,600人/年	指標2:高田公園利用者数 1,484,600人/年	基幹事業である『公園:高田公園』の事業内容に『高田公園広場等整備事業』を追加変更したことにより高田公園利用者の増加を見込み、高田公園利用者数を変更した。
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

(事業費: 百万円)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道高田公園球場線	-	なし	146.3	W=10.5m、L=581m	第1回変更(平成25年9月)で、高次都市施設から分離し新規事業として追加	影響なし	●	
公園	高田公園(野球場)	192.7	両翼拡張L=5m ほか	225.5	両翼拡張L=5m サブスタンドほか	第2回変更(平成26年2月)で、公園内施設の充実を図るため、野球場のサブスタンド設置事業を追加したことによる事業費の増加	影響なし	●	
	高田公園(陸上競技場)	58.5	なし	560.8	メインスタンド トラック舗装ほか	第4回変更(平成26年8月)で、公園内施設の充実を図るため、陸上競技場のトラック舗装の改修事業を追加したことによる事業費の増加	影響なし	●	
	高田公園(桜植え替え)	70.0	N=350本	18.8	N=80本	第2回変更(平成26年2月)で、植え替え対象エリアを絞り込んだことによる事業費の減	影響なし		●
	高田公園(駐車場)	-	なし	150.0	A=5,100㎡	第5回変更(平成26年12月)で、公園内駐車施設の充実を図るため、駐車場及び園路を追加	影響なし	●	
	高田公園(広場及び駐車場)	-	なし	146.0	A=18,000㎡	第8回変更(平成28年1月)で、公園機能の強化及び高田公園全体の魅力向上を図るため、広場及び駐車場を追加	広場の追加変更により利用者の増加が見込まれるため、高田公園利用者数の数値目標について、広場利用者数を追加(32,000人増)し上方修正		●
下水道	上越市公共下水道事業	-	なし	14.0	L=330m	第1回変更(平成25年9月)で、高次都市施設から分離し新規事業として追加	影響なし	●	
地域生活 基盤施設	高田公園情報板整備事業	4.4	N=16基	4.5	N=25基	第4回変更(平成26年8月)で、中心市街地及び公園内の施設紹介の充実を図るため、看板掲載内容及び設置箇所を変更したことによる数量の増加	影響なし	●	
高質空間 形成施設	寺町公衆トイレ整備事業	-	なし	14.6	2棟(延床16㎡/棟)	第3回変更(平成26年4月)で、市街地を訪れる来訪者の利便性の向上を図るため、新規事業として追加	影響なし	●	
高質空間 形成施設	高田駅前雁木整備事業	-	なし	150.0	L=52.4m	第9回変更(平成28年11月)で、中心市街地及び高田公園を訪れる来訪者の利便性の向上を図るため、新規事業として追加	影響なし		●
高次都市施設	厚生産業会館整備事業 ・地域交流センター	1,962.0	延床4,720.00㎡	2,099.8	延床4,997.80㎡ (うち3,855.71㎡)	第4回変更(平成26年8月)で、市民ワークショップによる施設全体計画の見直しに伴い、事業費を増加	影響なし	●	
高次都市施設	厚生産業会館整備事業 ・子育て世代活動支援センター	-	なし	607.8	延床4,997.80㎡ (うち1,142.09㎡)	第4回変更(平成26年8月)で、市民ワークショップによる施設全体計画の見直しに伴い、新規事業として追加	影響なし	●	

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

(事業費：百万円)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
中心拠点 誘導施設	上越高等学校改築事業	297.8	延床7,750㎡	228.5	延床7,750㎡	第4回変更(平成26年8月)で、施設計画の変更に伴い、テニスコート、駐車場の整備及び既存校舎の解体費等、事業費の増加	影響なし	●	
既存建造物 活用事業	総合博物館整備事業	-	なし	602.2	延床1,260.77㎡	第1回変更(平成25年9月)で、高田公園の集客機能を強化し賑わい向上を図るため、新規事業として追加	高田公園内に整備するため、総合博物館来館者数の増加を見込み、高田公園利用者数の数値目標を約10%増(1,400人増)に上方修正		●
土地区画 整理事業 (都市再生)	土橋第一地区土地区画整理事業計画 画案作成事業	38.5	A=3.66ha	-	-	第4回変更(平成26年8月)で、社会資本総合整備計画の効果促進事業に移行したため削除	当該事業に関連するまちづくりの目標『市場ニーズに対応した居住環境の整備・改善による定住人口の増加』の削除、及び目標を定量化する指標『高田地区計画区域における居住人口』の削除		
土地区画 整理事業 (都市再生)	土橋第一地区土地区画整理事業	327.0	A=3.66ha	-	-				

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(事業費：百万円)

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(事業費：百万円)

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
新潟県における災害に強い安全・安心な 都市公園づくり(防災・安全)		新潟県	7,166	6,596	H22~H26	H22~H26	平成26年度に終了し高田公園利用者に活用されている。		
暮らしにぎわい再生事業		高田地区	3,398	3,330	H22~H25	H22~H25	平成25年度に終了し中心街地の拠点施設として供用している。		
高田駅前雁木整備実施設計		高田地区	0	7	-	H28~H29	平成29年4月に終了し高田駅前雁木整備事業(高質空間形成施設)に繋がっている。		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		基準年度	目標年度					あり	なし	
指標1	中心市街地歩行者数	人/日 中心市街地(仲町4丁目、本町3丁目、本町5丁目、本町6丁目、大手町、寺町2丁目)における歩行者数を測定する。			4,481	H24	5,000	H29	モニタリング	H27	4,396	モニタリング	×		
									事後評価	確定見込み ●	5,003	事後評価	○		
指標2	高田公園利用者数	人/年 高田公園内施設利用者数及び観桜会の観光客数を合計する。			1,147,076	H23	1,484,600	H29	モニタリング	H27	1,734,439	モニタリング	○		
									事後評価	確定見込み ●	1,536,971	事後評価	○		
指標3									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	上越高等学校改築事業により学校の郊外移転を抑制して学生をまちなかに留めたほか、交流拠点との連携や効果促進事業による各種イベント等が一体となり賑わいの向上に寄与したとともに、寺町公衆トイレ整備事業や高田駅前雁木整備事業により歩行者の利便性及び回遊性が向上し、中心市街地歩行者数が目標値に達したため「○」とした。	
指標2	桜植替え事業により重要な観光資源を保全したほか、新たな交流拠点施設である厚生産業会館や高田公園広場等の整備により集客力が強化され、多様な世代が多様な目的で利用することで交流人口の拡大に繋がった。また、体育施設の改修事業により、これまで開催することが出来なかった大規模な大会が開催可能となり、遠方から宿泊を伴う利用者が訪れるようになったことなどから、高田公園利用者が目標値に達したため「○」とした。	
指標3		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	高田駅の利用者数	人	JR東日本旅客鉄道(株)及びえちごトキメキ鉄道(株)公表の1日平均乗車人員を参照し、2を乗じた値を乗降客数とした			4,600	H24	モニタリング	H27	4,324	鉄道駅を利用した交流人口の流入は、城下町高田の賑わいの再生状況を表すと考えられることから、本事業による効果の発現状況を計る参考指標として取り上げる
								事後評価	確定 ●	見込み	
その他の数値指標2	新たな地元主体のイベント数	件	上越市産業振興課商業・中心市街地活性化推進室による街なかイベント関係入込数集計を参照			±0	H24	モニタリング	H27	2	新たな地元主体のイベントの開催(開催)は、城下町高田の賑わいの再生状況を表すと考えられることから、本事業による効果の発現状況を計る参考指標として取り上げる
								事後評価	確定 ●	見込み	
その他の数値指標3	上記の入込客数	人/5年				±0	H24	モニタリング	H27	4,230	
								事後評価	確定 ●	見込み	
その他の数値指標4	空き店舗の解消数	軒	効果促進事業「空き店舗等利用促進事業」により解消された高田地区空き店舗数の推移を参照			±0	H24	モニタリング	H27	1	空き店舗の解消数(減少)は、城下町高田の賑わいの再生状況を表すと考えられることから、本事業による効果発現状況を計る参考指標として取り上げる
								事後評価	確定 ●	見込み	
その他の数値指標5	高田小町の利用者数(入館者数)	人/年	上越市文化振興課による高田小町入館者数集計の推移を参照			25,471	H24	モニタリング	H27	24,797	まちなか回遊拠点である高田小町(公共施設)の利用者数は、城下町高田の賑わいの再生状況を表すと考えられるため、本事業による効果発現状況を計る参考指標として取り上げる
								事後評価	確定 ●	見込み	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・高田公園桜植替え事業をきっかけに、公園や桜の管理を行う住民主体のボランティア組織が生まれ、観光資源や良質な景観・空間の保全に加え、地域の魅力を向上させようとする意識が醸成された。
 ・上越高等学校(フードコース)の生徒が主体となって地元のお土産(お菓子)を考案し、イベントを通じて地元の店舗と協働で販売するなど、学生が積極的にイベントに参加し、地域住民やまちづくり団体と交流することで、地域との連携やコミュニティーが醸成された。
 ・まちにムーブメントを起こそうと一部の店舗や団体が自ら意欲的に活動を始め、地元主体によるまちづくりの機運が高まってきている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
社会資本総合整備計画の中間評価に合わせて実施	予定どおり実施した	【実施頻度】 1回（交付期間内） 【実施時期】 平成29年3月（中間年度である27年度の計測結果によりH28年度に実施） 【実施結果】 指標のH27年度末現在の数値を把握し、事業期間の中間年度時点での効果の発現状況を検証することができた。	引き続きモニタリングを継続し、効果の持続状況やまちの課題の変化等を捉え、今後のまちづくりに繋げていく。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
厚生産業会館の整備計画に関する市民ワークショップの開催	予定どおり実施した	【実施頻度】 21回 【実施時期】 平成25年12月～平成26年4月 【実施結果】 施設利用が想定される市民を対象としたワーキングチームを発足し、意見交換しながら厚生産業会館の整備計画の立案を行った。円滑な合意形成を図ることが可能となり、市民自らが愛着を持った施設として活用されている。	市民ニーズに沿ったより良い施設環境を維持継続するため、必要に応じて意向調査やワークショップを開催する。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
高田公園ボランティア組織	予定どおり実施した	民間団体の発案による市民ボランティア組織の発足	【組織名】 桜プロジェクトJ 【所属人数】 165人 【組織の概要】 市が行っている桜の長寿命化事業と一体となり、桜の維持管理作業や視察・講習会など年7回程度の活動を実施している。	市民と行政が一体となって、今以上に愛着と魅力が向上する公園づくりに努めていく。
	予定はなかったが実施した ●			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	担当職員 (都市整備課、下水道建設課、体育課、総合博物館、教育総務課、観光振興課、文化振興課、社会教育課、産業振興課商業・中心市街地活性化推進室)	第1回:平成29年10月10日 第2回:平成29年11月01日 第3回:平成29年11月09日	都市整備部 都市整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標1		指標2		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3	
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
			中心市街地歩行者数		高田公園利用者数		高田駅の利用者数		新たな地元主体のイベント数		左記の入込客数
基幹事業	【道路】市道高田公園球場線	—	上越高等学校改築事業により学校の郊外移転を抑制して学生をまちなかに留めたほか、交流拠点との連携や効果促進事業による各種イベント等が一体となり賑わいの向上に寄与したとともに、寺町公衆トイレ整備事業や高田駅前雁木整備事業により歩行者の利便性及び回遊性が向上し、中心市街地歩行者数の増加に繋がった。	◎	桜植替え事業により重要な観光資源を保全したほか、新たな交流拠点施設である厚生産業会館や高田公園広場等の整備により集客力が強化され、多様な世代が多様な目的で利用することで交流人口の拡大に繋がった。また、体育施設の改修事業により、これまで開催することが出来なかった大規模な大会が開催可能となり、遠方から宿泊を伴う利用者が訪れるようになった。総合博物館も来春オープンすることから、高田公園利用者の更なる増加が期待される。	—	人口減少社会の中にあっても数値は横ばいで、対H27でみると利用者が増加しており、また、北陸新幹線から在来線への乗換えによる流入人口も一定程度見込まれることから、事業効果が発現しはじめていると考えられる。(参考:北陸新幹線開業に起因する特急・快速の増減便なし)	—	地元主体で新たなイベントが開発され、延べ1万人を超える入込客数により交流人口の拡大に寄与している。まちづくりに係る地元の機運が高まる定性的な効果も発現している。	—	左記に同じ。
	【公園】高田公園	○		◎		○		○		○	
	【下水道】上越市公共下水道事業	—		◎		—		—		—	
	【地域生活基盤施設】高田公園情報板整備事業	○		◎		○		○		○	
	【高質空間形成施設】寺町公衆トイレ整備事業	◎		—		○		○		○	
	【高質空間形成施設】高田駅前雁木整備事業	◎		○		○		○		○	
	【高次都市施設】厚生産業会館整備事業(地域交流センター)	○		◎		○		○		○	
	【高次都市施設】厚生産業会館整備事業(子育て世代活動支援センター)	○		◎		○		○		○	
	【中心拠点誘導施設】上越高等学校改築事業	◎		○		○		○		○	
	【既存建造物活用事業】総合博物館整備事業	○		◎		○		○		○	
提案事業											
関連事業	新潟県における災害に強い安全・安心な都市公園づくり(防災・安全)	○		◎		○		○		○	
	暮らし・にぎわい再生事業	◎		○		○		○		○	
	高田駅前雁木整備実施設計	◎		○		○		○		○	

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備した施設に加え、中心市街地の空き店舗や既存施設の利便性の向上を図るとともに、各施設の連携を強化することで、中心市街地の魅力と集客力を高め、交流拠点との相乗効果を図る。	施設利用者の利便性や快適性を高め、より質の高い施設に強化するとともに、中心市街地との情報共有や連携を強化することで、まち全体の活力増進を図る。	高田駅利用者が中心市街地と交流拠点を快適に移動できる環境を創出し、まち全体の利便性と回遊性を高める。	地元主体のイベントを促進し、中心市街地の集客力を強化し賑わいを創出することで、まち全体の活力増進を図る。また、イベントを通じて全国に地元の魅力を発信する機会とする。	左記に同じ。

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標4		その他の数値指標5					
指標名		空き店舗の解消数		高田小町の利用者数(入館者数)					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】市道高田公園球場線	—	空き店舗が活用され、まちの賑わい再生に向け、事業効果が発現し始めている。今後の波及効果に期待する。	—	貸館機能とまちなか回遊の拠点機能を併せ持つ公共施設である高田小町の入館者数が増加している。29年度は評価値よりもさらに増加が見込まれ、事業効果が発現し始めている。まち全体の活性化に向け、地域住民やまちづくり団体の継続的な活動が期待される。				
	【公園】高田公園	○		○					
	【下水道】上越市公共下水道事業	—		—					
	【地域生活基盤施設】高田公園情報板整備事業	○		○					
	【高質空間形成施設】寺町公衆トイレ整備事業	○		○					
	【高質空間形成施設】高田駅前雁木整備事業	○		○					
	【高次都市施設】厚生産業会館整備事業(地域交流センター)	○		○					
	【高次都市施設】厚生産業会館整備事業(子育て世代活動支援センター)	○		○					
	【中心拠点誘導施設】上越高等学校改築事業	○		○					
	【既存建造物活用事業】総合博物館整備事業	○		○					
提案事業									
関連事業	新潟県における災害に強い安全・安心な都市公園づくり(防災・安全)	○		○					
	暮らし・にぎわい再生事業	○		○					
	高田駅前雁木整備実施設計	○		○					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地元商店街とまちづくり団体と連携して商店街の魅力向上に努め、中心市街地の集客力を強化することで、賑わいの向上を図る。	施設利用者の利便性や快適性を維持するとともに、施設の情報発信を強化することで、交流人口の増加を図る。また、施設利用者を商店街や交流拠点へ誘導することで、まち全体の賑わいの増進を図る。			
-------	--	---	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			その他の数値指標1			その他の数値指標2			その他の数値指標3		
指標名		中心市街地歩行者数			高田公園利用者数			高田駅の利用者数			新たな地元主体のイベント数			左記の入込客数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【道路】市道高田公園球場線															
	【公園】高田公園															
	【下水道】上越市公共下水道事業															
	【地域生活基盤施設】高田公園情報板整備事業															
	【高質空間形成施設】寺町公衆トイレ整備事業															
	【高質空間形成施設】高田駅前雁木整備事業															
	【高次都市施設】厚生産業会館整備事業(地域交流センター)															
	【高次都市施設】厚生産業会館整備事業(子育て世代活動支援センター)															
	【中心拠点誘導施設】上越高等学校改築事業															
【既存建造物活用事業】総合博物館整備事業																
提案事業																
関連事業	新潟県における災害に強い安全・安心な都市公園づくり(防災・安全)															
	暮らし・にぎわい再生事業															
	高田駅前雁木整備実施設計															

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)																
------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		その他の数値指標4		その他の数値指標5					
指標名		空き店舗の解消数		高田小町の利用者数(入館者数)					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】市道高田公園球場線								
	【公園】高田公園								
	【下水道】上越市公共下水道事業								
	【地域生活基盤施設】高田公園情報板整備事業								
	【高質空間形成施設】寺町公衆トイレ整備事業								
	【高質空間形成施設】高田駅前雁木整備事業								
	【高次都市施設】厚生産業会館整備事業(地域交流センター)								
	【高次都市施設】厚生産業会館整備事業(子育て世代活動支援センター)								
	【中心拠点誘導施設】上越高等学校改築事業								
【既存建造物活用事業】総合博物館整備事業									
提案事業									
関連事業	新潟県における災害に強い安全・安心な都市公園づくり(防災・安全)								
	暮らし・にぎわい再生事業								
	高田駅前雁木整備実施設計								

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)							
------------------	--	--	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	担当職員 (都市整備課、下水道建設課、体育課、総合博物館、教育総務課、観光振興課、文化振興課、社会教育課、産業振興課商業・中心市街地活性化推進室)	第1回:平成29年10月10日 第2回:平成29年11月01日 第3回:平成29年11月09日	都市整備部 都市整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①拠点施設の郊外移転の抑制(地域内立地の促進) 多世代の人が行き交う街なみ創出のため、高田駅近くの学校を整備して教育文化施設の郊外移転を防ぐ必要がある。また、人口減少により学生が少なくなる中、北陸新幹線の開業を見据え、市外から学生を取り込むことによる更なる活性化が必要である。そのため、必要に応じて施設の建て替えを行い安全対策の強化が必要である。	・教育文化施設(上越高等学校)の改築により、拠点施設の郊外移転を抑制し、学生をまちなかに留めたことがまちの賑わいの維持・増進に繋がった。 ・また、改築した教育文化施設(上越高等学校)を利用した講演会やイベントが開催され、中心市街地で開催されるイベントに学生が積極的に参加することによって、地元との連携やコミュニティーが醸成され、合わせて中心市街地の活性化に効果をもたらした。	なし	[中心市街地] ・当事業の実施により交流人口の拡大に成功したが、狭隘道路や密集市街地特有の住みづらさ等から定住人口の拡大までには至っていない。 [交流拠点] ・多くの交流人口を生んだことで、歩行動線上のバリアフリー化や公園本体と広場が道路で分断され一体利用できないことが新たな課題として発生した。
②新たな拠点施設の拠点整備 交流拠点施設がなくなり街の活力衰退の要因となっている。交流・文化の拠点となり、市民活動の場となる多目的ホールを建設することで地域内交流を促進し、魅力と活力のある都市拠点を創造する必要がある。こども施設は、多くの市民から屋外広場も含め既存の子育て支援施設以上の機能が望まれており、屋外施設の設置や既存施設の利用との相乗効果による、より良い施設が必要である。	・屋内拠点として厚生産業会館(現高田公園オーレンブラザ)が整備され、多様な世代の多様な目的による交流が新たに生まれた。ワークショップにより市民主体で造った施設として、市民自ら多種多様な施設の使い方を応用し、施設のポテンシャルを最大限に活かしては始めている。 ・厚生産業会館に子育て世代活動支援センター(現こどもセンター)が併設されたことで、多世代が交流できる環境が充実し、魅力ある拠点施設となったとともに、屋外拠点である広場を総合的に整備したことにより、賑わいと交流の相乗効果が生まれた。		
③既存施設の機能維持・強化 中心拠点区域内にある施設(博物館・陸上競技場・野球場など)や高田公園の景観について機能の維持・強化のため大規模改修などを行い集客機能を高める必要がある。	・野球場と陸上競技場の体育施設については、改修前には開催できなかった大規模な大会を開催することが可能となり集客機能の強化に繋がった。 ・また、市外からの集客も増加し、宿泊や飲食、観光等による中心市街地への波及効果が見られた。		
④新たな持続可能な集客イベントの開発 街の特徴を活かした継続的なイベントなどの開発を行う必要がある。	・新たなイベント開発及び実施により、まち全体の活力増進に繋がった。 ・また、市民のまちに対する意識の醸成が図られたとともに、まちの歴史や文化を知る機会となった。		
⑤城下町高田の回遊性の創出と中心市街地の活性化 観光拠点である高田公園と中心市街地の連携を図る必要がある。	・寺町公衆トイレの整備や施設案内看板の設置により、イベントや観光を目的として中心市街地へ訪れる人の利便性が向上した。 ・高田駅前雁木整備により、中心市街地を訪れる観光客や高田公園利用者が、天候に左右されることなく回遊できる環境が整備され、快適で心地良い歩行者空間の増進に繋がった。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・新たなイベントの開発	当該区域に高等学校が複数点在するという街の特徴を活かし、学生がイベントに参加しやすい環境を引き続き促進し、学校での取組みを地域や学校間でコラボレーションするなど、更なるまちの賑わいの創出や中心市街地の活性化に繋げるため、学生が自由な発想で主体的に行う新たなイベント開発等を検討する。	・イベント支援 ・まちなか高校生フェスタ
	・厚生産業会館の魅力向上	厚生産業会館は多世代による幅広い分野の活動の場として利用されているが、更なる魅力と活力ある施設へ成長させるため、誰もが気軽に自由に集える利便性と質の高い施設として強化を図るとともに、活動グループ間や世代間による相互間交流を促進する取組みを検討する。	・利用者アンケートによる施設利用ルールの検討 ・相互間イベントの開発
	・情報発信の強化と連携	まち全体の活力増進を図るため、交流拠点と中心市街地相互におけるイベントや施設の空き情報の共有化、電子媒体等による情報発信を検討する。	・効果的な告知方法の検討 ・施設間情報の共有化 ・相互連携による情報発信
	・回遊性の向上	交通弱者をはじめとする来訪者の回遊性を高めるため、公共交通機関の利便性向上や上越総合技術高等学校の生徒による放置自転車再利用活動を発展させ、拠点に無料自転車を配置するなど交流拠点と中心市街地を車以外で結ぶ対策を検討する。	・バス路線及び時刻のわかりやすい案内表示 ・再利用自転車活用事業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	<ul style="list-style-type: none"> ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園全体の機能強化 ・定住促進 	<p>高田公園本体と広場の一体利用と安全で快適な歩行空間を形成し、公園全体の更なる機能強化と賑わいを創出するため、歩行動線上のバリアフリー化や公園本体と広場との分断解消等を検討する。</p> <p>人口減少社会の中にあっても持続可能なまちとするため、当事業効果を活かした定住促進策の検討を進める。</p>

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み	達成度		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	中心市街地歩行者数	人/日	4,481	H24	5,000	H29	確定 ●	5,003	○	あり	-	目標達成のためフォローアップしないが、今後のまちづくりに活用するため、毎年度の推移を計測する。			
							見込み			なし	-				
指標2	高田公園利用者数	人/年	1,147,076	H23	1,484,600	H29	確定 ●	1,536,971	○	あり	-				
							見込み			なし	-				
指標3							確定			あり					
							見込み			なし					
指標4							確定			あり					
							見込み			なし					
指標5							確定			あり					
							見込み			なし					
その他の数値指標1	高田駅の利用者数	人	4,600	H24	/	/	確定 ●	4,532	/	/	/	今後のまちづくりに活用するため、毎年度の推移を計測する。			
							見込み								
その他の数値指標2	新たな地元主体のイベント数	件	±0	H24	/	/	確定 ●	4	/	/	/				
							見込み								
その他の数値指標3	上記の入込客数	人/5年	±0	H24	/	/	確定 ●	12,151	/	/	/				
							見込み								
その他の数値指標4	空き店舗の解消数	軒	±0	H24	/	/	確定 ●	4	/	/	/				
							見込み								
その他の数値指標5	高田小町の利用者数(入館者数)	人/年	25,471	H24	/	/	確定 ●	25,596	/	/	/				
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	事業期間の中間時点において、効果発現状況の確認や分析(モニタリング)を行うことで、残期間での取組みや今後のまちづくり方策の検討に繋げることができた。	今後も推移を計測し、まちの変化を把握する。 次期計画や他地区においてもモニタリングを実施する。
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	全ての指標で目標が達成することができ、事業の効果が目標に適切に反映された。	今後もモニタリングを継続し、まちの変化を把握する。 目標値は客観的にわかりやすく、情報量の多い指標設定に努める。
	うまく いかなかった点	指標の目標値は、全体でまとめず細分化した方が情報量が多く分かりやすかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	市民ワークショップにより施設の整備計画を立案したことは、市民のまちづくりに対する意識向上と市民にとって愛着のある施設の整備に繋がった。 また、住民主体のボランティア組織が形成されるなど、市民自ら地域の魅力を向上させようとする意識が醸成されたことは非常に大きな効果だった。	住民参加は、円滑な事業推進のみならず、事業完了後の継続的な施設活用や維持管理等に効果的であり、今後も市民自らが積極的にまちづくり活動に参加できる環境を整備していくことが重要である。
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価にあたっては、庁内横断組織による「事後評価庁内検討会議」を実施し、各事業の担当課で課題や今後のまちづくりの方向性を共有し、改善方策等について多角的に検証できた。	計画期間中のモニタリングの実施は、事業の進捗状況や事業効果の確認ができ、有効である。 今後も定量的数値の継続的な計測と合わせ、庁内検討会議を実施し、事業効果を検証するとともに今後のまちづくりの方向性について情報共有し、次期計画の策定に向けた取り組みを実施することが重要である。
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	今後のまちづくりに活かせる情報項目を整理し、できるだけ詳細な情報を収集するとともに、利用者の動向などにも注視していく。
	うまく いかなかった点	施設利用について、現状の更なる把握や今後の取組み検討に活用するため、もう少し詳細な情報を把握すると良かった。(観客数やフリースペースの利用人数、どのような年代・客層がどの時間帯でどのような使い方をしているかなど)	

添付様式6—参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- 今後の都市再生整備計画事業の活用予定
本事業で実施した事業の効果を活かし、引き続きの都市機能強化と定住促進を図るため、二期計画を策定したい。
- 事後評価を予定している地区
直江津地区(平成30年度)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成29年12月11日(月) ～平成29年12月25日(月)	同左	担当課への郵送、 FAX、電子メール、 窓口での意見書	都市整備部 都市整備課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に、住民公表 を実施する旨を掲載	広報上越12月1日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市整備課窓口で閲覧	平成29年12月11日(月) ～平成29年12月25日(月)	同左		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	佐野 可寸志：長岡技術科学大学教授	平成30年1月23日（火）	都市整備部 都市整備課	上越市都市再生整備計画 評価委員会設置要綱	-
その他の委員	岩崎 義一：国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所 調査第二課長 石野 友則：新潟県上越地域振興局 地域整備部 計画調整課長 渡部 准次：上越商工会議所事務局長 井部 辰男：上越市町内会長連絡協議会				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価 手続き等 にかかる 審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	○以下の意見や質問があったが、根拠や考え方を説明し、評価結果について了承された。 ・その他指標の設定時期と選定方法 ・指標の目標値は、全体でまとめずに細かく分析した方が情報量が多くて分かりやすい ・その他指標1の評価値の分析方法 ・その他指標1の評価値について、特急の本数変更など北陸新幹線開業による影響がある場合、数値的な単純比較での評価に疑問 ・上記について、影響があるのであれば、その旨を評価書に記述した方が良い ・その他指標2、3、4の従前値を0とした理由 ・未完了事業のモニタリング ・体育施設の観客数の計測方法 ・事業の波及効果である宿泊客数の増加を定量的に評価できなかった理由 ・下水道事業の指標改善に対する貢献度の考え方
	実施過程の評価	・適正に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後の まちづくり についての 審議	今後のまちづくり方策の作成	・特になし。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。